

他力

― 住職便り ―



第35号（令和七年六月）
専徳寺住職 弘中満雄

【本堂の干支】

最近はどうあまり話題にでませんが、今年（乙巳年）は干支は乙巳です。

①親鸞聖人はへび年生まれです。

承安三年（1173）生まれの聖人は今年ご誕生852年……12で割り切れます。

②蓮如上人（1415）は……末年です。

さらに言うと、本堂右余間の③聖徳

太子（574）は午年。左余間の七高僧の

①龍樹菩薩 ②天親菩薩は不明ですが、

③曇鸞大師は辰年、④道綽禪師も午、

⑤善導大師は酉年、⑥源信和尚は寅、

⑦源空（法然）聖人は丑年でした。



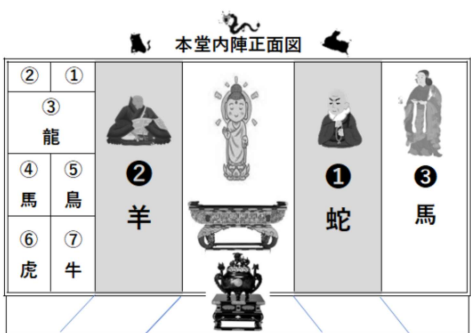
自分と同じ干

支のお上人はおられましたか？

私は①です。

【同じ干支】

先日、ある法座でこの話をすると、前列にいたご婦人が、



「私は兎です。阿弥陀様と一緒にです。」
とてもありがたい言葉でした。

この方はお説教で、「私と阿弥陀様は親子の関係」と聞いておられるのです。

親は子が誕生した時、初めて親になります。そういう意味で、親子の誕生日は同じ年月日といえます。



阿弥陀様はお念仏の者を仏にするとお誓い子育ての親様です。干支も一緒です。

【迷信知らず】

干支（十干十二支）は「西暦」をもたない時代、大変重要でした。なぜなら60年で一周する十干十二支がわかれば、

「今から何年前か」すぐに調べられます。

ただ問題もあります。迷信です。



来年は午年「丙午」です。この年は火と馬のイメージから「人間の気性が激しくなる」と噂されました。そして実際に60年前、120年前の丙午の年の出生率は大変低いのです。



しかし120年前の丙午の年、浄土真宗の北陸門徒や安芸門徒が多い地域は出生数があまり下がっていませんでした※1。

「門徒もの知らず（物忌み知らず）」という言葉があるように、迷信に惑わされない氣質が浄土真宗にはあります。

【真宗の誇り】

親鸞聖人が書かれたのは「正信偈」です。「迷信偈」ではありません。



迷信は正信にであって破られます。

丙午にかぎらず、迷信や占い、現世祈禱に頼らないのは浄土真宗の誇りです。

今の世代にもきちんと伝わってもらいたいと思います。そのためにどうするか。結局、一人くのお聴聞しかありません。

「いつの生まれでも全く関係ないよ。あなたも私もみな仏の子、阿弥陀様の子。死んで終わっていく人生ではないよ。」

不安は安心にであって消えるのです。

※1石瀬寛和「迷信気かけぬ空気が大切」（中国新聞3/12）

